E-mail との長い長い戦い

■青野 慶久

サイボウズを起業したのは，今から 22 年も前の 1997 年．「Web」という新しい情報技術が世界中のありとあらゆる仕組みを革命的に変えていくだろうと，多くの人たちが気付き始めたころです．それから続々と IT ベンチャーが誕生し，検索エンジンからポータルサイト，物販，メディア，広告などなど，めざましい社会変革を引き起こし続けて今に至ります．

私たちが目を付けたのは，仕事道具としての Web でした．SMTP を使った E-mail は便利だけれども，HTTP を使った Web 技術は情報共有に強みがある．Web は私たちの働き方を変えると確信しました．そこで，手軽に情報共有ができる Web ベースのグループウェア「サイボウズ Office」を開発したところ，予想を上回る勢いで売れていき，サイボウズは創業から丸 3 年で東証マザーズに上場することができました．

しかし，ここから低迷が始まります．翌 2001 年には売上が激減し，ソフトウェアの保守料でなんとか食いつなぐ日々が続きます．E-mail が爆発的に普及していったのに対して，グループウェアはどうにも普及が遅い．その原因の一つが組織にあることに気付いたのは，ずいぶん経ってからのことです．

アメリカのある大手 IT 企業に訪問したとき，スケジュールの情報すら共有しない先方にこんなことを言われました．「なぜ自分のスケジュールを上司に見せなくちゃいけないんだ．必要な情報はメールで送ればいい」と．

■ 青野 慶久
サイボウズ（株）代表取締役社長 兼 チームワーク総研所長

1971 年生まれ．愛媛県今治市出身．大阪大学工学部情報システム工学科卒業後，松下電工（現 パナソニック）を経て，1997 年 8 月愛媛県松山市でサイボウズを設立．2005 年 4 月代表取締役社長に就任．2018 年 1 月代表取締役社長 兼 チームワーク総研所長（現任）．

情報共有に必要なのは，組織で働く人たちが互いにオープンに情報を公開し，協力し合うマインドです．出世競争や足の引っ張り合いが強い組織においては，情報を共有することはむしろ自分を危険にさらすことになりかねません．

E-mail は宛先を選んでクローズに情報を送ります．これは宛先に入っていない人たちとの情報格差を生み出します．情報格差は対立を引き起こし，権力格差を加速する原因になります．権力を手放したくない人たちがいるかぎり，情報を共有する方向とは逆の力が働くのです．

その後，Twitter や Facebook が普及し，若い世代から徐々に情報共有の文化が広がってきました．日本においても人手不足が深刻になり，情報システムに投資をして生産性を高めようとする経営者が増えています．組織内で情報共有を進めれば，時間や場所に制限のある人たちとも効率良くチームワークをすることができます．多様な働き方を実現するためのインフラとして，グループウェアの価値が再認識されるようになってきました．

十数年にわたる長い長い停滞期間を経て，グループウェアの本当の普及期が始まりました．テクノロジーを使うのは人類です．人類の進歩なくしてテクノロジーの普及なし．アップデートする必要があるのは，ソフトウェアではなく私たち人類なのかもしれません．